



東尾理子さんが受けたクアトロテスト

現在妊娠中のプロゴルファー・東尾理子さんが「クアトロテスト」という血液検査を受け、「ダウン症の確率が 82 分の 1 だと言われました」と、自身のブログで公表しました。このクアトロテストについて助産師学生的美緒ちゃんと、元助産師の臍ばあちゃん(新潟弁)が語り合います。



臍ばあ: 「クアトロ」とはなじらね。桑とトロなら知ってるも。

美緒: イタリア語で4の意味ね。友達と4人でベニスに行った時、レストランで「何名様？」と聞かれて、「クアトロ ペルソネ」って言ったらすぐ通じたわ。英語の「フォー・パーソンズ」より味があるわよね。

臍ばあ: 4つもテストするてば、ばか大変なこて。

美緒: 妊婦さんから採血して、胎盤などで産生される4つの物質を測定するの。ダウン症の場合に増える物質や逆に減る物質があって、その数値を過去の膨大なデータに当てはめて、ダウン症である確率を計算するの。



美緒ちゃん

臍ばあ: 確率なんてまどろっこしいこと言わんと、白黒決めてくんなせや。そらろも、血い取っただけで分かるとはえしたもんらな。

美緒: 今おばあちゃんの言ったことは、クアトロテストの特徴をうまく言い当てているわ。採血だけで分かるという簡便性はあるけれども、確実にダウン症だとか絶対そうでないという結果が出るわけではないの。東尾さんみたいに



臍ばあ

1/82 と出ることもあるし、1/2200 などと低く出る場合もある。確定診断にはあくまで羊水検査が必要になるのね。

臍ばあ: そういんだ。せばあんまし意味のない検査なんらろか。

美緒: いいえ。クアトロテストの基準値(1/295=35 歳の妊婦がダウン症を産む確率)より確率の高いとされた 1763 人から 39 人(2.21%)のダウン症が出たのに対し、確率が低いとされた 17349 人からは 6 人(0.03%)しか出ていないの。医学的には意味のある検査といえるわ。

臍ばあ: もし確率が 82 分の1と高目だば迷うわな。羊水検査もおつかねえし、あのべっぴんさんみたくしなくても産むまで心配だわな。

美緒: そうね。いくら採血だけで簡単といっても、クアトロテストはあくまで出生前検査であって、安易に行うような検査ではないわね。

臍ばあ: 確率が高いと言われ、羊水検査して流産してたんじゃ元も子もないわな。何でも 300 回に1回流産の危険があると聞いたこて。

美緒: もしクアトロテストが広く行われれば、心配で羊水検査をする人が増えて、中には流産する人も出てくるかもね。医学的に意味のある検査で情報は増えても、必ずしも幸せに繋がるとは限らないのね。

臍ばあ: もし羊水検査をして異常なしでも、そのボボが何も異常がねえことにはなんねえわな。異常の種類はばかいつてことあつからな。

美緒: クアトロテストのような出生前検査は、妊婦さんの知る権利、産む(産まない)権利を確保するという側面と、胎児をふるい分けするという側面があり、倫理的にとっても難しいものなのね。厚生労働省も「医師が妊婦に対して本検査の情報を積極的に知らせる必要はなく、また医師は本検査を勧めるべきではない」としているよね。

編集部注: 以上のような理由で、当院ではクアトロテストは扱っていません。高齢などでどうしても心配な方に確定診断をする羊水検査は行っています。過去 13 年で受けた方は 25 名で、うち 1 名がダウン症でした。その方は中絶せずそのまま出産され、発達は遅いが着実な成長を喜ばれて慈しんで育児をされ、毎年賀状を下さっています。

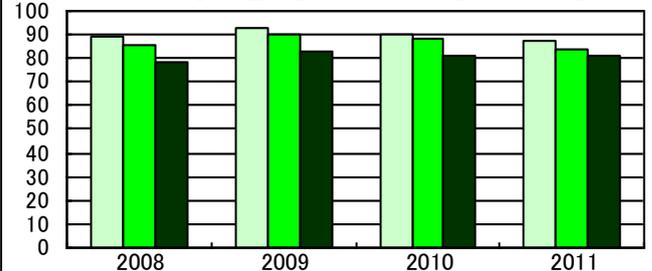
赤ちゃんにやさしい病院認定更新

当院は 2008 年にユニセフ(国連児童基金)から「赤ちゃんにやさしい病院(Baby Friendly Hospital = BFH)」に新潟県内で初めて認定されました。ユニセフは、赤ちゃんが最良の形で人生のスタートを切るには母乳で育てられるべきであり、母乳育児の推進には産科医療施設の関与がカギになることに着目、それを実践する産科施設をBFHとして認定しているのです。

認定3年を過ぎ、今年認定更新のための再審査が行われました。(1)1か月健診時点で母乳だけで育てている方の割合が継続して 80%を越えている(下図)。(2)分娩に対する医療介入が低い。(3)助産師が地域の要請に応じて講演活動などを行い、母乳育児の輪を広げている。(4)「新潟母乳をすすめる会」の事務局となって、県内の助産師、産科・小児科医の母乳支援技術の向上に寄与している。以上の点が高く評価され、認定更新をいただきました。(3)は育児支援センターで、「誕生日はありがとうの日」「育児の原点はハグ」「卒乳」などのテーマで講演したり、15回にわたって中学校などで育児、母乳、抱っこのお話を通して、命の大切さ、家族の大切さを伝えたものです。

今後も「母乳の良く出る楽しい育児」を皆さまに実践していただけるよう、スタッフ一同努力してまいります。そして BFH 認定に今一步の所まできている新潟市民病院とも協力して、新潟におっぱいの輪を広げていきたいと考えています。

当院の完全母乳率(左から退院時、2週健診、1カ月健診時)



《情勢抄》▼ロンドン五輪が終了し、日本勢は史上最多となる 38 個のメダルを獲得し、大いに盛り上がりました。オリンピック開催中に出産された方の母子手帳の「出産の状況」の欄には、「ロンドンオリンピックで日本勢メダルラッシュ」と書かせていただきました。将来お子さんとオリンピックを見ながら、2012 年のロンドンの時は、との思い出になれば幸いです。▼オリンピックの開会式で、元ビートルズのポール・マッカートニーが名曲「ヘイ・ジュード」(オリンピックだからといって「ヘイ柔道」ではありません、念のため)を熱唱したのも、リバプール出身のこのスーパーグループのデビュー 50 周年にあたることもあって話題になりました。表彰式では、イギリス映画「炎のランナー」のテーマを使う心憎い演出で、さすが英国は文化の香り高い国だと感じ入りました。▼ビートルズで有名な曲に「レット・イット・ビー」があり、これは若い方々でもご存じではないでしょうか。この曲には意味深な歌詞があります。「苦難の時にはマリアさまが現れ、ありがたいお言葉(words of wisdom)をかけてくれる、『あるがままに』(Let it be)と」。先の「ヘイ・ジュード」の歌い出しも、「なあジュード、悪く考えるな(Hey Jude, don't make it bad)」です。「あるがままに」、「悪く考えるな」、どちらも安産のための大秘訣です。